

2021/08/09(月)

18:35 みと:こんばんは。なかなか思うような活動ができておりませんが、集まらなくてもできる企画として第2回 Line座談会を開催したいと思います。

往復書簡よりは早く、本当の座談会や対談よりも緩やかに、コメントできるときにしたいときにしていただく形式で、間に別の話題を挟んでいただいても全く構わないというスタンスでできたらと思います。

今回のテーマは「コロナにまつわるエトセトラ」ということでお願いします。

また、感染者が増えてきていますね。当院でも先週末から一人また一人と日に日に増えて本日で3人、そのうち1例がECMO症例です。

コロナについては、医学的にも社会的にも関心が集まり議論の尽きないところです。ワクチンのこと、治療のこと、資本主義、 Kommunismus、生政治、生のあり方について等々。

まずは皆様の現況などご報告いただけるとそれぞれ立場も違うでしょうし、話の取っ掛かりになるでしょうか。

よろしくお願いいたします。コメントはいつでもOKですし、もちろん全員していただく必要はありません。座談会の内容は前回同様編集の上、ブログや機関紙へ掲載させていただく予定です。

19:08 空谷子:みと先生、ありがとうございます！

コロナにまつわるエトセトラ、面白いですね😊

私はH市立病院で研修中ですが、研修しんどいなーと思っています。

今日日直だったのですが、コロナの人けっこう来てました。絶対数は都会より少ないし、中等症しか扱いませんが増えてきた印象です。

19:31 みと:空谷子さん、お疲れ様です、ありがとうございます。私も研修医のときは研修が終わったら医者はやめようとおもっていましたが、だらだらと続けています。コロナはうちの発熱外来でもまた数が増えています。空谷子さん、発熱の診療についてはどうでしょうか？私が感じているのは発熱のときの診療がこれまでとかなり変わってしまったなということです。研修医にはちゃんと問診をとったか、身体診察をしたかと、viral infectionかそうでないかがself limitedな疾患かどうかで大事であるというようなことを教えてたように思いますが、最近ではまずPCRですね。隅から隅まで問診、身体診察をしてくださいとは言えなくなっていました。

19:40 空谷子:みと先生、研修終わったら医者やめようと思ってらしたんですね。

僕もゆうたらそんな風にも思います…。ハイポ病院でまわりよりやること全然楽で少ないのに、全然できてないなあと思ってます。

発熱の診療は、うちは有熱外来でまずコロナの抗原定量を検査して、陰性なら救急外来に回ると感じます。PCRまではやりませんね…。救急外来に来た患者さんについては身体診察もしますが、そこはその時々^の指導医によって要求される程度が違う感じですね。

当院では研修医は半直(夜12時までの当直)や日直に入るかどうかは自分で決めてよくて、どの先生が当番の日がよいか選べるシステムなんです。

19:45 みと:当直や日直をしなくてもよいということですか?朝までの当直はないのですね

19:46 空谷子:朝までの当直は2年目から入るのが可能になりますが、それも入るか入らないかは自由です

19:50 みと:選べるというのは素敵ですね。うちの病院には研修医を終えてからソーシャルワーカーとして働いている方がいます。いろんな道があってよいのかなと思います。この階級社会であえてSWを選択するというのはとてもめずらしいと思いますしいつかお話聞きたいなと密かに思っているのですが。もうベテランの優秀な相談員です。

19:54 空谷子:選べるのは本当にいいと思います。やらないと成長できない気がしますから入っていますが…。

ソーシャルワーカーになられた方がおられるんですね。どんな思いでなられたか興味深いです。みなさん、優れた能力を諸方面で活かされているんですね。

20:41 H:コロナのエトセトラ始まりましたね、みとさん企画ありがとうございます。
当直と進路が先ずはトレンドですね。

私は本日当直明け。私はこの7月から基本的に病棟を持たず、気ままな救急外来研修をしています。

昨日の当直では久々に、やや責任のある立場で、優秀な後輩が倍近く患者を診てくれる中で、横になる時間はなく、何とか逃げ切りました。朝はCPAでフィニッシュでした。

コロナさん確定例は昨夜だけで4人、うち2人がコントロールセンター(保健所)経由して搬送入院でした。

今、素寒さんがこの裏で重症対応に奔走しておられます。

私と素寒さんとは現在同じ施設ですが、COVID重症対応チーム(コビ重)という組織に加わっています。救急科、呼吸器科、感染症科スタッフならびに後期研修医で構成された5-6人のチームが週替わりで病棟を担当しています。中等～ECMO未滿が基本の当院の16床は、昨日のスタート時点で満床で一般病床に拡大させています。今週水曜日から私も再度参加をすることになります。

みとさんのご指摘通り、身体診察する機会が減ってきました。ビデオ越しの問診を積極的に活用しています。プライマリケアの状況ではPCRか抗原検査のスクリーニングと遠隔診療ですが、医療従事者への曝露リスクを低減させ機能を維持する観点からはやむを得ないと思います。一方PCRと診察をすり抜けて、肝膿瘍やCAEBV疑い、若年者の悪性腫瘍などが診断されているのを目の当たりにします。

20:48 H:そして進路についてですが、これが相当に悩ましい状況です。

20:49 H:直近の話題で行けばこういう本を読んでいます

20:50 H:医療現場は地獄の戦場だった！

https://www.amazon.co.jp/dp/B08NV33NM5/ref=cm_sw_r_li_api_glt_D4MWP26A41TRA AH92K30?_encoding=UTF8&psc=1

20:57 H:著者の大内先生は米国育ちで、あっちの内科と救急のレジデンシーを経て救急外来での緩和ケア(悪いニュースの伝え方とか、意思決定)の臨床研究をされていた方です。子供さんもまだ小さいようです。コロナ開始直後、病院から「研究は一切ストップして臨床に従事せよ」という命令が出たそうです。

21:07 H:私は学生の頃から、緩和ケアを深めてみたいと思って、これまでいました。

しかしCOVID。世の中のニーズと関心。

私は、迷っています。

21:21 素寒:(既往歴のない48歳、重症COVIDの挿管例が発生しました。今、対応を終えつつあるところ。腹臥位でなんとかかなりそうです。今日は日勤からそのまま臨時当直とあいなりました。COVIDの新規入院は今日は7件・・・第五波の恐ろしさがここからくるの

かなと、内心戦々恐々としております。話の腰をおるつもりはありませんので、皆さん歓談を続けてくださいませ)

21:34 Hがメッセージの送信を取り消しました

21:34 H:お疲れさまです

22:19 みと:素寒さんお疲れ様です。歓談を続けさせてもらいます。うちの病院は重症三床受け入れの体制ですが、中等～ECMO未満の16床から病床拡大も迫られる状況は地獄ですね。インフルエンザと違うのが、帰れないけど寝かせとくだけと思っていた一群がみるみる重症化し挿管が必要となってしまうケースが少なくないことでしょうか？内訳が気になります。ちなみに当院の病院の体制は脆弱で、特に決まったチームというものはなく、2週間毎に各科から人員を出して3人チームでローテーションするというものです。ECMO症例は循環器が主導となります。

やはり決まった専門のチームが関わり続けるほうがよいと思いますが、当院では限界があるようです。

22:52 H:みとさんのところもチームを敷いてローテーションしておられるんですね。

病棟では急変一挿管のケースは、これまでは多くなかったように思います。生来健康な方も多く、年齢は10代から80代まで。第四波までは高齢者も多く死亡例もありましたが方針が決まっていたケースでした。今後若年層が増えるなか、諦めてはいけないケースが増えるでしょうね。

23:39 素寒:料理人の中東久雄という人が、「どんな命(食材)にも 最高の味がある」と述べており、感動致しました。現実態と可能態、主体性と他者性ということを悶々と考えていましたが、得心がいったような心持ちです。銀閣寺近くにあるようで一度行ってみたいなあ。

(Hくんの世間のニーズと関心ということを聞いてふと思いました。話の腰をおるつもりはありません。ご歓談を続けてください)

23:44 H:<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BE%8E%E5%B1%B1%E8%8D%98>

23:45 H:心地よさそうなところす

23:49 H:ニーズの話とどう繋がっているのか、俄には、わかりませんでした。すみません。悶々。

2021/08/10(火)

18:01 空谷子:世の中のニーズは他者性、自分の関心は主体性、、、

ですが、自分の関心すら「他者の欲望の投影」かもしれない。

「どんな命にも最高の味がある」ように、「自分が本当によい状態」というのは世間のニーズでも自分の関心でもない、真実の自分の欲するところにあるのかもしれない...

などと考えていました

18:23 みと:コロナ当番中は他の業務が免除されるわけではないので外来、病棟業務+ICU患者が3人くらい増えるというイメージなので、full ppeでcv入れ替えしたり、icu管理したりとちょっとドタバタはなりますね。うちの病院はそこまでではありませんが。隔離解除になるとそのまま病棟でも担当していたコロナチームの誰かが継続してみることになります。京都にある梅小路公園という公園には小川が流れているのですが、草むらを網で引っ搔くとエビがとれます。小さいエビなのですが、私はつい最近までザリガニだと思って育てていました。しばらく飼っていると一匹だけどんどん大きくなってきてそれは本当にザリガニだったのですが、他の五匹くらいは全然大きくならなくて、水草を買いに金魚屋に行ったときに似たようなのが泳いでいて見るとヌマエビと書いてあります。この前、わんさかとれたのですが今では区別がつくようになり、十匹以上とれたうちの二匹がザリガニの赤ちゃんでした。小さいハサミを持っているかどうかで区別がつけます。家の水槽に入れると水合わせをしなかったせいか、直前に水を大量にかえたせいか、カルキは抜いていたのですが朝になると多くが死んでいました。応急処置で酸素のタブレットを二つ放り込んでいたのですがダメでした。水底に沈んで赤くなってしまいました。

中国では高級食材としてザリガニを食べるそうですね。

日本料理のゆかしさは素材本来の持つウマミ、良さを最大限に生かす、引き出すというところにあるでしょうか。

多かれ少なかれ私たちはプラトンの大いなる他者の影を見ているところがあるでしょうが、その人や物の本質かどうかは別として不要なものを削ぎ落とした先には核となる何かが残る、自分のできない物事の集積がしらず最高の味になっている場合がありますよね。できることの寄せ集めは結局、いつも出来損ないのアイデアの影でしかないと落胆させられるものでもあるでしょうし、等々思いながらまたエビをとりに行きたいと考えながら帰路につきます。ザリガニはあと数年で飼育が違法になるようですね。

18:40 H:ええっ！

19:00 みと:まだ決定ではないみたいですね。飼育は免そうな気配です。

<https://www.yomiuri.co.jp/science/20210715-OYT1T50138/>

2021/08/13(金)

12:48 素寒: こんにちは。遅ればせながら近況などご報告します。

今は感染症科に所属しており、3週に1週のペースでCOVID19病棟専属になります。よく言われるように、COVID診療は味気ありません。発症からの日数と、酸素需要の有無でおおよそ治療が決まってしまうから、バリエイティがありません。個別の苦しみは様々にあるのですが、あふれる患者をさばく臨床医学からすればせいぜい数パターンに類型化されるのみです。感染対策のため回診頻度も少なくなりますし、full PPEでは患者から我々の個別性を識別することは不可能でしょう。ケアの質はどうしても変容します。そうは言ってもやはりここまで患者があふれると、ケアではなくキュアを適切に分配する、つまりトリアージと治療で手一杯です。トリアージはケアの分配ではなくキュアの分類であって、医療資源の不足がいよいよ明瞭となる災害のような状態が長期化する状況では致し方ございません。京都のコントロールセンターでは中等症のカルテの束がどこにも分配できずに蓄積する一方のようです。京都の昨日8/13の新規感染者数は372人。連日200人超えて異常事態と言われていたのも今は昔。

第五波がこれまでと大きく異なるのは、その年齢層です。第五波では70歳以上の入院がほとんどありません。ワクチンのなんたる僥倖。ワクチン反対派の主な理由の一つにその副反応があると思います。確かに1億分の1の確率でもそれが生じてしまった個別性からすると、健康だったのにワクチンで健康を害したという結果になってしまうのは馬鹿げた悲劇でしょう。しかし、この有病率の変化をまざまざとみると、ワクチンの偉大さを感じざるを得ません。

そう言うわけで入院の患者層は30代、40代というと我々と同世代ですが、彼らはどのような経験をしているのでしょうか。大部屋で隣人の咳や呼吸苦を見聞きし、時に自分のそれを遠慮し、忍び来る「十日目の増悪」を恐れつつ不安の内に過ごしているのでしょうか。若いころ東南アジアを旅行しましたが、そこにはドーミトリイタイプのという安宿がありました。相部屋のことですが、異なる文化圏から来た旅行者がstranger同士で交流が生まれることもしばしばありました。時に文化が衝突することもありました。例えば台湾のドーミ

トリイで知り合ったアメリカ人男性に朝起きてからケツを叩いて挨拶をしたら凄まれたことがあります。

“Oh, are you gay !? ”

“No, I’m not.”

“What is the population of Tokyo ? ”

“I think it’s like ten million.”

“Then, one million people in Tokyo are gay.”

COVID19の罹患は旅に喩えるのは不謹慎なのかもしれませんが、彼らが異国でどのように滞在しているのか少し気になります。

20:28 みと:素寒さんお疲れ様です。

これまでの統計では若年者の死亡率は極めて低いものにですが、実際に若年者で挿管まで必要になるケースはどのくらいあるもののでしょうか？

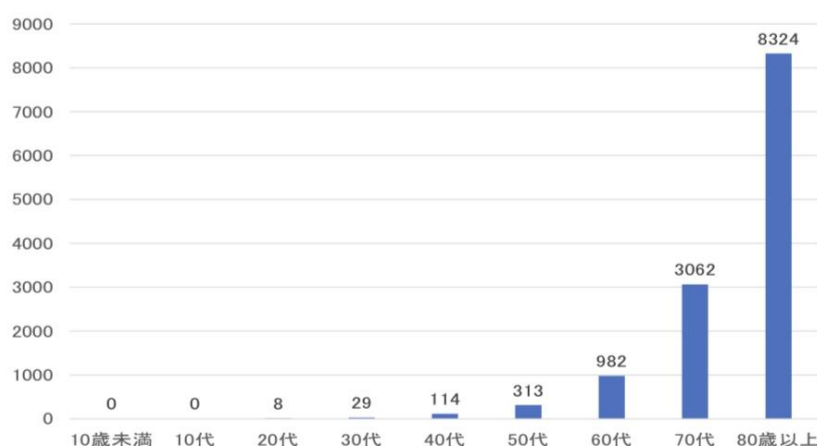
私の病院では重症例しかとらないということもあり入院患者はほぼ高齢者、たまに50-60代といった感じでしょうか。統計をとったわけではないのでざっくりとした印象ですが。ひとつ訂正でこの前のECMOになったという症例は乗せずにECMO回避できたようです。

お尻タッチというのは特別な意味を持っているのでしょうかね。文化が違うとたまにショックを受けることがありますね。

私は以前友人のお見舞いに行った時にお母さんがみかんやらバナナやら色々次から次へと出してくれて、私は素直に感謝していただくのですが、そこは神戸で京都ではありませんでした。がぶぶ漬けの文化もありますし、もしかしたらとたまに思い出して考えてるのですが意味の次元が弱いもので嫌味や悪意には未だにぼんぼんとは反応できません。

死亡率の内訳

図 1-5 年齢階級別死亡数（2021 年 7 月 21 日時点で死亡が確認された者の数）



致死率（％）

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	年齢階級計
計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	1.4	5.1	14.2	1.6
男	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	2.0	7.1	19.4	1.7
女	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.7	3.1	11.1	1.4

* 年齢階級別にみた死亡者数の陽性者数に対する割合

（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第5.2版より）

21:52 H:O病院では、私がしるこの1週間では、挿管例は素寒先生が対応された40代の方一例です。やはり50-60代が多く、すぐカルテみられないのできちんと数字をだせないのですが、常に15人程度患者があり毎日1-2人が入れ替わっているとすると7日間で30人、そのうち1人、程度でしょうか？ちょっと当てになりません。すみません。他院で挿管も考慮といって来られた方をNIVやHFNCで粘っている症例もあり、率はひくくなるとおもいます。明日にも挿管になってもおかしくなさそうな人は今の16人の中に二人ほどいる印象です。

2021/08/14(土)

12:47 素寒: 当院ではほとんどが中等症1ないし中等症2の方です。まれにリスクのある軽症も入院しますけども。その中等症の方で、挿管を要した人は40例中1例よりも少ないと思いますね。

ただ、H君のコメント通り、当院はHFNC or NIV+腹臥位療法でかなり粘りますので、挿管例の少なさはそれを反映しているかもしれません。先日も挿管手前で重症化したのが、重症病床がいっぱいという理由で日赤より当院に搬送された40代がいますが、結局NIV+腹臥位療法から開始し、今はHNFCで酸素も漸減できています。もし前医で重症病床に空床があれば挿管されていたのでしょうか。

当院では理学療法士にfull PPEで呼吸リハをしてもらっています。他院ではどうなのでしょう。ERでもリザーバー10Lで90%を保てず挿管か、と検討された例も、HFNC+側臥位で98%まであがるケースがありましたが、体位を変えてもらうだけで酸素化がよくなるというのは、日々実感しているところです。どこの病院もfull PPEとなる煩わしさや節約の観点から回診の回数を減らしていると思いますが、それもあって、呼吸リハが不在であれば体位変換を促すのはかなり難しいのでは、と思います。

呼吸器リハのCOVID病棟への参加については、当初リハビリ部門から相当の反発があったと当院感染症科部長が以前ふりかえっておられました。一般のクリニックでも、当院の他部署でも、恐怖が先立って、とにかく関わりたくないという科学的には全く根拠の無い行動をとってしまっており、そこにも分断がおきてしまっていると。我々はそうやって避けることができないから、戦うしかない、考えて対策をたてて実践するしか無い、と。リハビリスタッフとfull PPEの練習を始め、話し合いを重ね、診療に参加してもらい、今は全例にリハビリを実施するシステムが構築でき今に至ったようです。

自明かもしれませんが、人間が織りなすあらゆるレベルの関係において、対話の欠如は敵対関係をつくりだします。それは不自然な口ゴスによる人工的な分断です。先日NHKの特集でソーシャルケアワーカーの取り組みをみました。ワーカーがゴミ屋敷に2年間通い続けたが住人には会えない状況が続いていました。たまたま会えた時にゴミを片付ける約束をして、スタッフたちで片付けるようになると、その掃除を見たこれまで敵対関係にあった(とまでは言わないまでも、ゴミを片付けないことで害虫が生じることなどで不満に思っていた)近隣住民も加わり、住民間で対話が生まれ、それ以降も交流が続くようになった。流れを止めれば淀んでろくなことが起きません。感染症だって同様の機序で生じます。人間関係において、流れを流れとして流すのは対話に違いありません。声を増やし、流さなければなりません。

昨日京都の新規感染者は450人、東京は5773人。当院のERには夜間でも濃厚接触者がPCR検査を希望してERを受診する患者が目立ってきました。1ヶ月前には保健所からの指

示に従って、こういった自己判断での受診例は乏しかったですが、今は保健所の指示待ちを待ちきれずにERを受診に至るようです。集団行動が変わるのは集団心理が変わるからでしょうが、完全に災害時のそれになっていますね。

もてなし方には文化の差異があるでしょうね。その昔、ワンダーフォーゲル部に所属しておりましたから、島に行く機会がありました。島では客が食べきれないほど、飯を出します。食べきっては主を不快にさせてしまいますので食べきってはいけません。もとい、食べれる量じゃないんですけどね。東は知りませんが西ではとにかくそうでした。

13:03 素寒: コロナで自宅療養中の患者の訪問診療の取り組みもあり、その中で覇道を邁進している先生もおられます。

13:13 H: 覇道...

全国で自宅療養は70000人だそうですね

13:32 素寒: 覇道の人ですよ。

今のところこのゲームを楽しんでおられるようです。

13:53 H: 左様ですか...

13:53 H: 海賊王になる男だ！みたいなもんですね

15:20 素寒: うーん・・・

おっしゃることの行間がいまいち読めないのですが、

僕は単に自分の直接の観察から、覇道の人と申し上げただけです。

嫌味で言ってるわけでも、賤しめているわけでもございません。

私のような下僕が人を裁くなど滅相もないことです。老師の言いつけでございます。

15:56 H: なるほど。。すみません早計でした。

16:05 みと: 人を引き込む力はすごいですよね。

16:39 みと: ジャンプの抱える問題は私達の問題と一緒にですね。

海賊王になれば漫画は終わるのですが、終わっては困るのですよね。もう少し稼ぎたい。稼げなくなったところで海賊王になればいいわけですね。

富樫は幽遊白書やhunterxhunterでハイパーインフレーション、脇役の総雑魚キャラ化を回避しようとしていたように思えますが、なかなか難しいのでしょうか、脱成長の物語を描くのは。

今でもビルドゥングスロマンがどうしても売れてしまう。富樫の挫折はhunterxhunterにおけるインフレ回避を意識してようとしたのに、心の成長については肯定的に描いてしまったことにもあるのでしょうか。

17:47 素寒:僕もあの快男児は好きです。

僕みたいな鼻くそのような存在も、まるで僕が目上のように立ててお話されるわけですから、戦国時代にいるような気になってきますよ。いわゆる人たらしの武将肌ですね。

最近の漫画は、勧善懲悪のビルドゥングスロマンがやけに目につきますねえ。

政治にも、会社にも、ヒーローにも、優等生にも、不良にも善と悪がくんずほぐれず入り乱れ、不可能と思われていた逆転劇が・・・

タイムリープ系も繰り返し利用されますが、だいたい勧善懲悪になりますね。

インフレ回避といえば、ジョジョがパイオニアと聞いたことがあります。

そのインフレ回避の問題も我々も抱えているというお話をもう少しお聞かせください。

18:36 みと:特にひねりはなく、そのままの問題ですけど、今は人新世(ひとしんせい)などと言われていますね。とても簡単に言えば、人の活動が最も地球環境に影響を及ぼしている時代と。コロナもその一つで全てではない、今後他の新規ウイルス感染の流行や異常気象など、今後コロナが収束したとしても生活様式の見直しが迫られていることには変わりない、もっと言えば資本主義は本当は瀕死であるけれど、それを認めたくなくて否認や取引をしている段階が今である、というようなことも大澤真幸などが述べています。キューブラー＝ロスの死の受容の5段階を社会に適応しているわけですが。

現に経済は明らかにコロナ後落ち込んでいるはずなのに、株価は順調に上昇しているのですが、それこそ否認であると大澤は言います。

ジャンプで伸び悩んだらお色気を増やすなり異世界に放り込むなりすれば一時しのぎにはなるでしょうが、そもそも成長し続けることの限界がいつか来るわけで、成長しない、最後の審判を想定しない、というコミュニティを作る、世界を作る、という課題は私たちとも共通しているかなと。私たちとは誰だ、私たちとは私たちではないと言われればそれまでですが。私たちは私たちではないと言う人はつまり瀕死であることを認めたくない人たちでもあるのでしょうかね。

お前はもう死んでいると言われる前に薄ら笑って中指立ててる人ですね。気功はもう穿たれているのに。

18:37 みと:



(<https://www.jiji.com/jc/article?k=2021021500688&g=eco>)

18:49 みと: NPOが結託して縦ではなく横の繋がりを広げていけないかと夢想しております。

18:59 みと: そういえば、成長しないヒーローといえば、ワンパンマンがありますね。

<http://galaxyheavyblow.web.fc2.com/>

20:17 素寒: ワンパンマンは僕も好きです。インフレ回避をうまくやったものだと思います。

ヒーローものではamazon primeのthe boysが好きです。続編が待ち遠しい。

2021/08/15(日)

06:22 みと: 今読み返してみるとワンパンマン第一話、なかなか笑えないところもありますね。人間が環境汚染を繰り返すことで生まれたワクチンマン。地球は一個の生命体で人間は地球の命を蝕み続ける病原菌と。

the boys知りませんでした。勉強しておきます。

06:22 みと: [ワンパンマン第一話の一コマを貼付:

「私はそんな人間どもとそれが生み出した害悪文明を抹消するため地球の意志によって生み出されたのだ！

それを！趣味？趣味だと

そんな理由で地球の使徒である私に刃向かうとは」(ワクチンマンの台詞)]

06:26 素寒: ワンパンマン、たまにシリアスな場面がでてきて、それがまた結構細かく設定されているんですが、結局ワンパンチで何もかも吹き飛んで全て忘れてしまいます。

最初はそんな登場でしたか。

06:30 素寒: the boysも資本主義やらトランプみたいなポピュリズムがでてきて面白いです。

どこだかのドラマランキングではネットフリックスの数あるドラマをおさえて第一位でした。

07:10 素寒:資本主義では分業がすすむわけですが、分業とは自給自足の対義語であって、僕などは医療以外の産業は全て他者に委ねて生きております(今シーズンは枝豆を10個育てて食いましたが、ミソカスでございます)。災害下では、そのほとんど何もできない自分が顕在化するよう感ぜられるのは、死が近づいているからなのか。

昨日からの雨がひどく、警報を告げる緊急速報が朝夜問わず鳴り響いています。西大津バイパスはトンネル内に土砂が流入して封鎖されました。4年間の通勤で初めての事です。京都と滋賀を結ぶ大動脈の一つが寸断されて、滋賀へ向かう一号線はひどい渋滞でした。ひどい大雨とひどい渋滞の中、我が家は外食をしたのですが、こういう異常事態の時はやはり普段立たない問いが立ちます。僕らを含め人々は空腹を満たすために我先にと飯を食らうわけですが、飲食店の占める狭い面積に対して食事の容積を想像するとその不自然なアンバランスさに奇妙な気持ちになります。大雨で道路が一つ寸断されただけで、この渋滞になるのであれば、もっと大きな災害やら戦争で物流が途絶えたなら一体我々の空腹はどう満たされるのだろう、この子たちを飢えさせずにやり過ごせるのだろうか、とたちどころに死にまつわる不安が顕在化します。

人新世ですか、知りませんでした。現行の人間の活動と地球環境の維持はトレードオフの関係になっているようですから、今の社会のベクトルを維持すれば、地球環境は死を迎えるというのは想像しやすいことですが。キューブラー＝ロスの死の受容の5段階を当てはめるのはうまい比喻ですね。プラトンも社会を個人の比喻として描写していました。死の受容といえばハイデガーを思い出します。ところで、何が否認されたら株価が上昇するんですか。実体経済と株価の乖離といった意味合いなのでしょうか。

07:26 素寒:僕は成長をとっくに諦めてしまっているので、成長を続けようと言われてもピンときませんね。死に向かっているわけですからね。向かう先は成長どころかということです。

しかし、この死に向かっていることを理解しているというその言説もまた曲者でして。僕など今日を最後と思って日々生きている、などと強弁するわけですが、災害のような状況で

容易に思考が変わるので、それはやはり強弁で、具体的な経験に根ざしていないのでしょうか。仙厓和尚のように今際の際には「死にとうない」と申し上げるのでしょうか。

僕が向かう先はやはり具体的な経験です。「具体的なことを、具体的に」というのは僕がとある老師から随分と言い聞かされて来たことですが、具体的な経験と具体的な対話がなければ、文字通り話になりません。川は流れませぬ。もちろん、霸道にも、縦の広がりにもまるで関心がありません(しかし断言は可能なのか？私が権威的でないかと？)。死という現実と、不死という理想のギャップをいかに具体的に笑い飛ばすか、ということにひとまず僕の理性は関心をもってますね。

07:55 素寒:本宮ひろ志『まだ、生きてる・・・』という漫画がありまして、傑作ですよ。ソロ『森の生活』の現代版、日本版、といった感じです。そこでは、資本主義が批判的に、山の中での自給自足の生活が肯定的に描かれています。僕も自然に帰りたいな。ルソーの言うように文明があるからややこしくなっちゃって諸所の問題が生じるわけで。晴耕雨読したいな。虫苦手だな。

でも、この漫画では自給自足が賛美されすぎていますね。自然状態はやっぱり怖いんです。やはり市井の人々と具体的に泣いて笑って過ごすことから逃げちゃだめだと思うのですよね。隠遁して大所高所から現代社会の病理を論じるよりも、陸沈して市井の人々と笑って死んでいきたいなあ。

09:17 H:ワンパン原作も綺麗な方もどちらも面白いですよ。最初から敵がいらないせいでどんどん主人公の登場シーンがへります。ですのでサブキャラの戦いを主に楽しむ事になりますが、それで充分満足できます。

成長の物語を求める理由について仮説を考えてみました。

一つは、変化しない・うまくいかない現実に対峙して虚構を求める心から成長物語を欲するというもの。

もう一つは、人間は元来成長したり変化しようとするものに共感し励まされ、好意的におもいう存在であると言うものです。

前者は悲観的で後者は楽観的態度です。

the boysも本宮さんも知らないのです。古典も新作も心をうつものは、人間をよくみて描いておられるものと思っています。悲観的にか楽観的にかは作品により違ってきます。

さて雨が降って疫病が流行して仕事が無くなったり、食べるものに困ったり、子供が泣きやまなかったり、人々が祈ったりすることは自然です。その自然をみつめて、畏敬の念を抱き人々は互いに支え合ってきた。支え合うなかで、生産から剰余が生まれ、剰余は力となり、コミュニティは強化され、川の側から国家を形成してきました。これも自然のように思います。資本主義も自然であったように思います。資本家も人間だ(った)と思います。しかし持ちすぎることも妬みや憎悪を招いてしまうのも自然です。人間の人間たるところは、本来は、共感して愛おしく感じる場所にありと思いますが、剰余が人を狂わせているのではないのでしょうか。

私も家の中に虫が出ることがかなり苦手です。対応に困るからです。しかし山でヒルに噛まれても何も悪い気はしなくてむしろ自然だななどと観察します。自分のテリトリーを犯されることが辛いのです。

09:28 H:先週は通勤中に室生犀星の「性に目覚める頃」の朗読を、NHKラジオのアプリで聞きました。タイトルからは想像しづらい、結核のために才能ある17歳の友人を喪うお話でした。(恐らくはコロナ禍にあつての選択ではなかろうかと。)私は室生犀星は詩人だと誤解していて、小説を新鮮なきもちで味わうことができ豊かな時間でした。

19:30 みと:コロナ後はリーマンショックの時とも違い、経済は実際には落ち込んでいるのにも関わらず株価は上り調子でこれは実情とあまりに乖離しており、今が底値であってほしいという願望、これ以上冷え込むこと、資本主義の破綻への否認を現しているというようなことを大澤は言います。

プロ倫(プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神)的には最後の審判に対する信頼というか信仰が善悪、階級、貧富の差、資本主義的精神の根であるというのが古典的な解釈だと思いますが、資本主義が信じているのも最後の審判でそれまでに如何に功德を積む(金を蓄積するか)かが重要でそのために満足の瞬間を先送りし続けるのですね。その先送りし続けるという構造が成長物語に限らずその他娯楽の構造と相似形をなしているように思えます。

漫画で言えば、日常系?ほのぼの系?は脱成長の仕立てではありますが可愛いキャラクター達を資本としているところがありますね。大きな物語が後退し漫画自体が消費の対象をストーリーからキャラクターへシフトしている、というところもあるでしょう。

少女漫画では恋愛の成就がある種の最後の審判にあたるでしょうか。大島弓子は物語が描けなくなったそうですが、彼女の猫エッセイ漫画は過去の作品群より味わいがあるところがあると思います。いい感じに力も抜けていて。

中高生の頃に読んだ黒田硫黄の『黒船』や『茄子』は娯楽としてだけ消費されずおっさんになった今でも心に残っています。当然ですけど漫画でも消費されずに残る部分がありますね。それが藝術かなと思ってます。



19:31 みと：

(<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=64677?pno=2&site=nli>)

19:53 みと：(ルジャンドルや佐々木中によれば資本主義やサイエンスのルーツは中世解釈者革命ということになるのでしょうか)

2021/08/16(月)

06:55 みと：漫画については、もっと遡ると手塚なりドラえもんなり成長しない身体というのはもともと一つのコンプレックスとしてあったわけですね。ビューティフルドリーマーという星やつらの映画もありました。学園祭の前日を繰り返し続けるという、成長しない漫画自体へのアイロニーが込められていたと思いますが、そもそもは成長しないものだったんですね。その反動の中でグロテスクに成長し続ける漫画が現れるようになり成長すればいいってものじゃないと軌道修正せざるを得なくなったところがありますかね。

07:33 みと:鉄腕アトムやドラえものの時代は夢を消費し、経済の成長と共に終わらない成長を消費するようになり、今はどうでしょうか、キャラクター自体や関係性の消費が主流なのでしょうか。

2021/08/18(水)

08:53 H:今週に入り、月曜日火曜日と立て続けに挿管がふえ、病棟で2人を抱えることになりました。ICU患者さんは熱で気切が見送られています。コントロールセンター側の配慮か、昨日は外からの入院はありませんでした。が、眼前の事態はあまり良い方向には向いていないようです。

09:42 素寒:雨が続きますね。

終戦の日(正しくは敗戦、ですか)といえば、暑いはずなんです、もう秋の虫が鳴いてますね。これも異常気象で世界の終わりを告げているのでしょうか。世界と資本主義の終わりの兆候。であったとして、やっぱり一人称の死を複数形で考えるのは難しいですね。あまりピンときません。

最後の審判というのもいまいちピンときません。

契約と言われてもやはりピンときません。僕はminorityなのと無知なのがあいまって、正直日本の伝統もよく分からないのですが、それでもおそらく日本独特の空気の読み方と、一人称の使い方に四苦八苦し、議論はやっぱり「なら仕方がないか」で終えるのもある程度仕方がないことと思える文化圏に属しています。

中世解釈者革命というのもいまいちピンときませんね。言葉が脈々と革命とその後の変化をすりぬけてきたんだらうなという想像はできますけども。わたしの中の言葉が遠い記憶をすりぬけて時に噴出するように。読んでしまったら読み変えるしかない、書き変えるしかない、というのも自分の歴史をおぼろげながら振り返り腑に落ちるところではあります。なるほど、言葉こそ革命を起こす根本だということも同意します。言葉は人間のもつ最強の武器です。一方で、言葉は自然な流れを固定してしまったり、経験を離れた観念を作り出す有害作用もあります。同じことの繰り返しになりますが、自然の流れを損なわない、経験に即した言葉というものにしか関心を示せません。つまりは端的にどうしようもない井の中の無知な蛙でして。

京都の新規感染者は昨日8/18も400人を超えていますね。当院もCOVID19病棟の病床数は21から25に拡充されそうです。挿管例が増えてきました。我々は取れない症例は取って取れない症例はお断りする立場ですが、コントロールセンターでは命の選別が必要なトリアー
ジが行われつつあるのでしょうか。

10:43 素寒: たったいま、当院のERドクターから送られたメッセージです。

コントロールセンターでも非常勤で勤務しておられます。

具体的な限界が近づいているようです・・・

こういった記録も残したいものです。まだ本人には許可をとっていないので、転載は避けて
ください。

[命の選別が必要になるという内容等]

以上です。

17:51 みと: 座談会ですが、グループ作成しもう少しだらだら続けたいと思います。あと他
に参加希望者もあれば募ろうかと。

とりあえずこれまで発言いただいている方は座談会グループに招待いたします。その他、発
言はしないかもしれないけど参加したいという方もおられましたら招待しますのでお知らせ
ください。

23:23 鵜縁: コロナの話、現場の皆様の前で何も申すことができません。

すみません。

ただ、感謝の気持ちです。

皆様本当にご自愛下さい。

なぜ、苦勞する人が我慢をして苦勞を与える人が楽しむのか。

それだけではもちろんなくて、自肅を守っていても感染してしまう方もおられるでし
ょうが、なんとも言えない世の中だなと思います。

経済のこともよくわかりません。ただ、頑張っている人？が報われる世の中であって欲しい
です。

23:33 みと: 鵜縁さんありがとうございます。グループ招待してもよろしいでしょうか。

私はそれほど苦勞もしてないのにべらべらしゃべっております。。

23:40 鵜縁: グループ招待、お願いします。

いえ、僕は本当に何もしていないし出来ないのです。

テレビで聞く医療の逼迫の話題とここで聞くものとは感じ方が全く違います。

素寒先生のおっしゃるように経験した話か人の経験を話しているかの違いなのではないでしょうか。

2021/08/18(水)

23:51 みと: 素寒さん、お疲れ様です。

当院でも本日も一人コロナ重症患者が入ったようです。しばらくはICU満床で続くのでしょうか。これまではICUでみていたようなコロナ以外の重症患者はHCU(ハイケアユニット)でみている状況です。

命の選別。現況のパンデミックを考える際にはどうしてもトロッコ問題も想起されますね。ブレーキがきかなくなったトロッコを線路の先の5人を救うために路線を切り替え1人の命を犠牲にするかどうかという倫理学上の問題を。

どうしても今読んでいる本に引きつけて考えてしまうのをお許してください。最近、大澤真幸『新世紀の Kommunismus へー資本主義の内からの脱出』を車の中で読んでいるのですが、その中でもこの問題が取り上げられていました。私たちはより良い選択というよりより悪くない選択をすることを迫られていると。どっちがいいかということがない、どっちも悪いのですがより悪くないのはどっちかと。

アガンベンが生政治(生かす権力)が移動の制限を強いているといい、ビオス(社会的な生)よりゾーエー(動物的な剥き出しの生)を偏重する社会に批判的ですが、このパンデミックな状況においても人が協働するどころか貧富の差はますます拡大し、苦楽の偏差に拍車がかかっているのは生政治だけでは説明が付きません。生政治だけであれば協働の余地はありますがそれを妨げている根源は資本主義社会にあるというようなことを大澤はいいます。

うろ覚えで話しているのでおかしい点があれば適宜ご指摘ください。

23:52 みと: 素寒さんがおっしゃるように具体的なことを具体的にということは非常に大事ななことかと思います。

少し冗長で教科書的な話になってしまうかと思いますが、自分の頭を整理するために復習させてください。

存在Beingの様式には事実存在existentiaと本質存在essentiaがもともとあり、事実存在は～があるという存在様式、本質存在は～であるという存在様式に対応するかと思います。実存というと通常は本質存在のことを指しますが、実存のあり方が云々という前に実存の内実そのものがおかしい、どうして事実存在を軽視するのか、というのがハイデガーの問いでもあったと思います。～とは？という問いの立て方自体が時代的であるということです。存在を問う時は、それが事実存在なのか本質存在なのか意識する必要があります。本質存在への偏重はプラトンに由来するところがあるでしょう。イデアは私たちには内在しないものとして想定されます。私たちは常に理想の影です。本質は常に外部にあるのですね。ネオプラトニズムではそれが神として位置付けられます。天上界と地上界の垂直関係がここにあり、その仲介業者が教会ですね。法学(典拠)と神学(解釈者)は結びついてはいたわけですが、12世紀末にユスティニアヌス法典からグラティアヌス教令集を編纂した、この教会令の整備からテキストは無限に書き直してよいということが支持されるようになったわけです。これが中世解釈者革命で現代の科学主義や資本主義の根源となっているというのがルジャンドルだったと思います。ここから法テキストの文書化、合理化、客観化、階層化などが進み、政教分離、世俗化が導かれ、教皇は抽象化、中立化し国家が誕生します。これが世界の近代化＝世界のキリスト教化と言われたりします。私はこれを $0\infty=1$ とキリスト教の式として定式化しました。 $1/\infty=0$ という絶対的存在と人々の間にある三者関係を取っ払い、神を地上へ引きずり下ろしたのです。教会はただの仲介業者から地上で神の国の実現を保証する地位に格上げされた。テキストを無限に書き換えられるということは、想像的に神と自身を同一視することでもあります。ここで神は死にました。殺されました。

実存を語るとき、人は自分がどうであるべきか、自由に生き方を選べるという立場に立っています。神を殺したことで自由の刑に処せられているわけですが、神に成り代わっておこがましくもそう考えているわけなのでそれはそもそも無駄な問いなわけです。本質存在を問うというのは自分を神とだぶらせているということでしょう。

アリストテレスは本質は個物に内在するとします。この個物は所有できないとすると、現実主義と言われますが実際は神に対する信仰はプラトニズムよりあついということになるでしょう。自分の身体も自分が所有できるわけではない。この具象こそ信仰するに足るものと

思います。私たちは皆本来この大地に根ざしているはずで、抽象はその大地の賜物であるはずなのにそれを忘却するシステムが世界の近代化と共に構築されたのだと思います。

藝術は失われた大地を、具象を取り戻す活動でもあるでしょう。

反哲学などを乱暴になぞらせていただきました。

23:53 みと:<https://note.com/ysk2020/n/n928e4d3b3e1d>

23:53 みと:ZOZOの元社長の前澤友作が世の中からお金をなくすことを考えており、いずれコンタクトをとりたいと考えております。お金贈りで話題にもなっているようですが。

大澤の本で現代貨幣理論MMTとか共同所有自己申告税COSTの話を知りましたが、一番早いのが民間でお金以外の循環を立ち上げることではないかと。レンタルサービスやクーポンなど組み合わせて最低限の衣食住をまかなう体制を各地のNPOを巻き込んで作り上げられたらいいと思うのですが、知恵が欲しいところです。

死を恐れるのは、人によっては残された家族の生活の保障のなさだったりすることもあるかと思います。

こども食堂のような取り組みもあるようですが、どうにか最低限の衣食住までカバーできたらということ勝手に妄想して考えあぐねて前澤さんにもご意見を伺ってみたいと思うこの頃でした。

23:54 みと:長くなりすみません。最近考えることがずいぶん増えました。

2021/08/19(木)

14:46 H:早起きしたので朝興味深く拝見しておりました。以前よりみとさんの仰ってることに近づいた気持ちになりました。ネオプラトニズム以後、まだはっきりしっくり来ないです。また読み返します。

14:47 H:余り詳しく書くと個人情報が簡単に分かってしまうので気をつけているつもりです。当院のコロナ患者さんの重症度がうなぎ上りに上がっていて、ICUや一般病床に進出しています。

16:10 みと:Hさんお疲れ様です。コロナ増えていますね。私の病院でも昨日の発熱外来受診者の20人程度、2/3が陽性と顕著に増えています。

アカデミックな議論は苦手な雑多でいい加減なことも述べていると思っております。話半分に聞いていただければと思います。実学に援用できる理論であれば取り込んでいければと考えてます。

さて、今回当法人の会員で役所などへの書類提出などもお願いしている浅野さんにも参加いただいております。法律関連などにも詳しく、ご助言や不備があればご指摘いただければと思います。よろしくお願いいたします。

16:28 浅野:みなさまのお話を聞かせていただくだけになるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

18:55 H:浅野さんこんばんは。お久しぶりです。集まっていた頃が懐かしいですね。多分医療の話題以外もしたいと思っているので、是非コメントいただければとおもいます。

2021/08/20(金)

20:43 H:以前素寒さんも仰っていたのですが、コロナ病棟の勤務は、何というか、無味乾燥で、事務作業が多くなり、しんどい、と感じていることは多いです。私も、おそらくは共に働く上司や後輩も、今日はそういう気持ちだったと思います。

皆様仕事をして笑っていますか？まるで転職サイトのコピーですが、仕事のあり方についてこれほど世の中で議論がすすんでいるような気がしても、現実には工作中に笑いが止まらないなんて方にはそうそうお目にかかりません。仕事をしながら笑うにはコツがあるんだと思うんですね。

20:45 H:そうそう含蓄のある文章などかかず、ラーメン啜りながら思ったことを書き留めました。

22:17 鶴縁:患者と笑い合うのか、スタッフと笑いあうのか、はたまた一人で笑えればいいのかとか笑うにも色々ありますね。

僕は数年前、スタッフにあなたは笑わない人なのですか？と言われ、家庭でも子供にパパはどうして笑わないの？とまで言われてしまうようなことがありました。

つまらん世の中だと勝手に思っていたのですが、それを言われて、何がそんなに楽しくないのか。何がそんなに気に食わないのかとか。そんな事を考えているとそれすらも良くなって、思い切って楽しもうと思ってからはくだらん冗談でも楽しく聞けるようになりました。

ユーモアって生きていくのには大切だなと最近つくづく思っています。

面白きこともなき世を面白く、住みなすものは心なりけり

逆も然りで、物事の見方で笑顔が増えるんだと思います。

たまにはバカ笑いしたいものです。

2021/08/21(土)

19:40 みと:以前ももしかしたら送ったかもしれませんがドゥルーズのイロニーとユーモアについてこんな論文(下にリンクを貼付)がありました。私の感覚としてはイロニー(アイロニー)は現状追認、ユーモアは別の可能性の提示としたほうがしっくりくるかなと。イロニーは現在の構造の穴、欠陥を指摘して人より優位に立った気になる態度でしょうか。王様が裸であることは皆幻想と知っていながらそのように振る舞っているところに、さも皆が知らないであろうかのように王様は裸だと叫ぶ子供と一緒にしょうか。

壊すだけでなく別の幻想を提示してほしいところです。

昔学生時代にドイツ語の教授にカフカを原書で読みたいというようなことを言ったら、ドイツ文学か何かのドイツ人が、カフカを読むと暗い気分になるなどということを書いていて、という話を聞かされました。カフカは結構笑えるのですが、実際カフカは友人たちに自分の書いたものを読んで聞かせてときに皆ゲラゲラ笑いながら聞いていたという話もあったかと思いますが、文学と思うと真面目に笑わずに読むものと思うのか暗い気持ちで読まれてしまうこともあるようです。バージニアウルフやガルシアマルケスも笑えます。

鵜縁さんのお話を聞いて思い出したのが、学生の頃に子供の精神病院に研修に行った時のことです。そこの子供にどうしてずっと笑ってるの？笑わないでよと言われたことがあります。中井久夫の本の中に、ある精神病院の院長の話も思い出しました。いつもにこやかで笑顔が張り付いているのです。笑顔も仮面なのですね。

PTSDの子供などはマインドリーディングが得意ですね。常に人の顔色を窺っていないといけないような不安定な環境に晒されて続けていた結果なのでしょうけど。

https://kobe-du.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository_action_common_download&item_id=236&item_no=1&attribute_id=48&file_no=1&page_id=13&block_id=30

20:38 みと:子供が寝そうという連絡があったのでパンとワインを買って公園で食べています。何組か若者がたむろしています。

20:49 みと:一組はブランコ、一組は滑り台、一組は中央の広場で。少し蒸し暑いですが微かに吹く風が冷たく、鈴虫が鳴いています。子供が寝たようなのでそろそろ帰ります。

2021/08/23(月)

22:49 H:夜のコンビニの前や公園って誰かはいるものでしたが、それにしてもよく見かけます。自分もそこに行くようになったからなのもあると思いますが。

雑談を続けたいと思っています。

國松淳和という医師がシャムズということを仰っていて、コロナになって人格やメンタルが変わった人のことを指す言葉で、曰く疾患概念ではないとのこと。

<https://g.co/kgs/fZq3UG>

私はそこ迄の強い興味はなく本は読んでいませんが、講演ビデオみたいなものを去年みました。そこで雑談がメンタルに大事よね、みたいに語られていたことを思い起こしています。

リモートで雑談が減っていることによって会社では生産性とか楽しさとかが減ってしまっている、と言われて久しいですね。まあ私のような独居の人間は、減ります。逆にご家族といる方の場合は、家族との時間が増えて逆に窮屈なこともあるかもしれませんね。

2021/08/24(火)

20:05 みと:遅ればせながらグレタの演説を聴きました。地球の声のようにも聞こえます。

雑談は確かに減りましたね。黙食などとも言われますし、おしゃべりの敷居は高くなりましたね。

海外ではラブドールの売り上げが増えているそうですね。夫婦間での購入が増えているそうです。亭主元気で留守がいいでしたっけ。ほどほどの距離感が一番難しいということでしょうか。

<https://www.youtube.com/watch?v=PahnVMxQulk>

20:06 みと:https://www.youtube.com/watch?v=s_HHeo1ax1w

20:08 みと:1986年のCMのようですね

20:32 素寒:また蒸し暑くなってきましたね、いかがお過ごしですか。

モミジアオイが可憐に咲いております。

セミはあらかた鳴き終えました。

今日は子供達と佐川美術館に行きました。水上のその佇まいがまず良いです。展示作品より何より地下のシアターに大層感激しました。このように滋養を蓄える場所が身近にあればさぞよいだろうと思いました。

みとさん、歴史の講義をありがとうございます。

遅ればせながらコメントします。

自分が投げ入れられた諸条件を知るということは歴史を知ることでしょう。

私は神は殺していない。しかし、自由を享受しているのも、自由の刑に処されているのも、神が殺された結果である。その結果に投げ入れられている我々は、投げ入れられたにも関わらずご先祖さまの能動性に加担していることとなる。(そうは言ってもやはり、一神教文化圏にいない僕にとって、神というのは把握しづらいことです。)

歴史を知ってようやく人類となる。

昔学生の頃、そう言ってまずは人類になると、淡々とプラトンやらヘーゲルを読んでいた友人のことを思い出しました。その彼はタバコで緑の革命を起こそうとしています。

メラニー・クラインは、生後一年で悪い乳房を攻撃していたけれど実はそれも含め全部母親だったということに気がついて抑うつポジションに至るということを描写しています。

嘘か誠か知りませんがいずれにせよ、歴史を問う、実存を問う人間ならではのことだと思えます。

グレタは、早くに人類として抑うつポジションに至った稀有な存在ですね。我々はまだ一歳にも満たないということになりましょうか。

みとさんとはボキャブラリーのギャップが大きく、理解しがたい部分が多々ありますが、今後、みとさんの定式を含め、歴史へのまなざしを煎じつめる機会はまだ新たに設けましょう。まだまだ学問が足りません。

20:54 素寒:残念ながらお金をなくすという前澤の目標には全く共感できませんでしたね
(笑)

この格差社会で再分配をいかにしたものかと思い悩むところなのですけど。

お金がなくなると暴力がなくなることですけども、暴力がなくなるだなんてそんな無茶なと思います。去勢とかタナトスとかどうでしょう。

適応ということについて、また別に述べようと思っていますけども、僕は人々の適応を助ける臨床医なのでね。

しかし、みとさんからすると、今や資本主義によって人間の実存も、生態系も適応が困難になりつつあるのだから、システムに変革を促すことが適応の支援となる、ということかもしれませんが、僕にはそんな壮大なビジョンはもてませんね。面白いので陰ながらお手伝いはさせていただきますが(笑)

僕にとっては目の前の人間が笑うかいないかが適応のための大事な臨床上のプロブレムです。

その昔、通っていた塾の塾長に、「医者になったところで救える人間の数なんてしれてるやろ。薬学部や農学部にいて、薬でもつくれば、億単位 of 人間が救えるやないか」と言っていたことを思い出しました。

何もみとさんが臨床から離れるというような話はまるでしていません。この塾長のように個別と普遍を対立させる必要は全くないので、具体的な臨床をやりつつ、システムの改善にも寄与していくということでしょうけど。

レンタルサービスやクーポンなど組み合わせて最低限の衣食住をまかなう体制を整えるというのはまだ現実的で取り組みそうですね。アイデアとしてはファーストフードやコンビニで廃棄になる食品を再分配することと似ていますね。

2021/08/25(水)

10:58 みと:フーコーは『知の考古学』で連続的歴史について言及しています。出来事に一つの統一的な説明を与えようとすることはある種の罣でもあるのだと思います。当然断絶はあります。大文字の歴史の中に埋もれた事象を掘り起こし歴史の糸を紡ぎかえること、現在の主流が必然ではないということを想起させるというのが社会学の役割なのかなと思います

ます。タイムマシンではないですけど、未来を変えるために何度でもその都度過去を振り返りその時の大文字の歴史を組み替えていく必要に迫られるのではないかと。

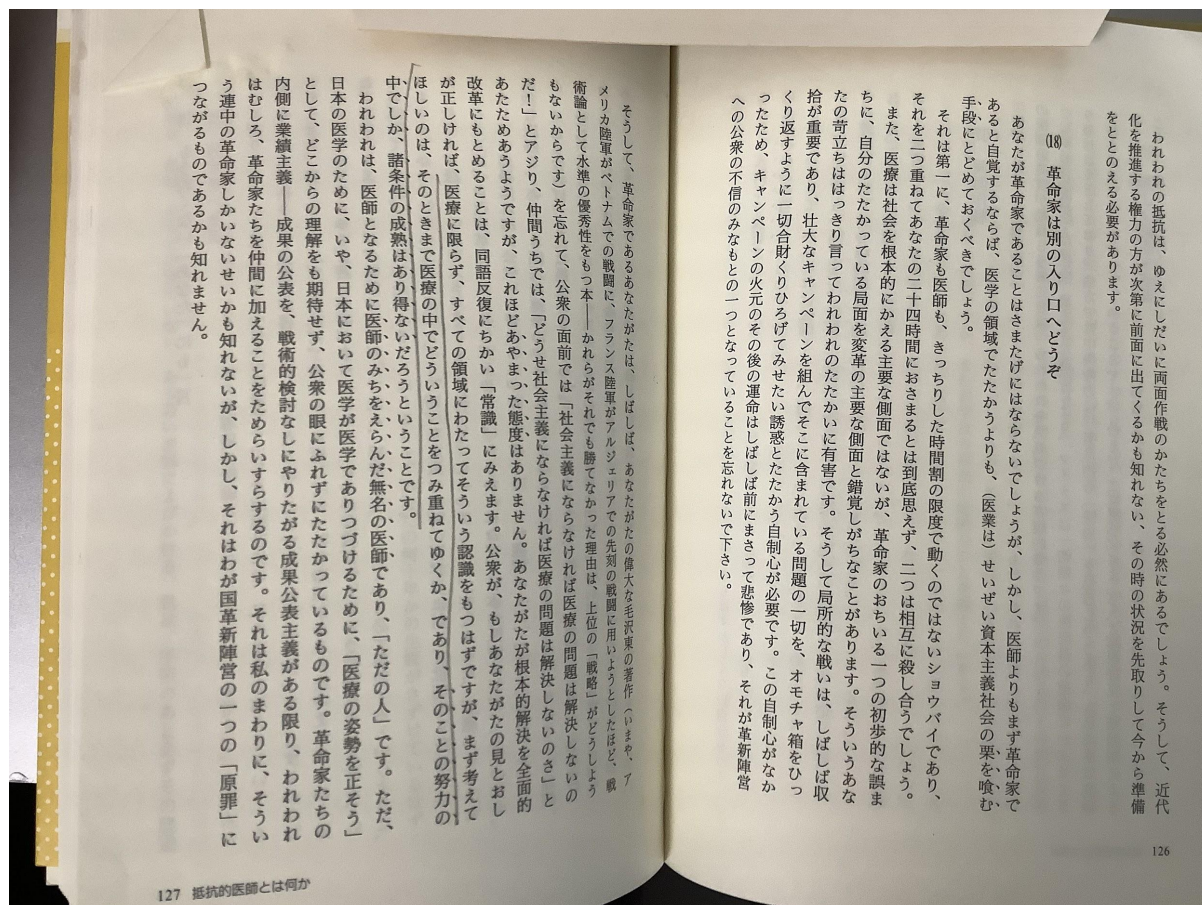
精神分析や脳科学にも連続的歴史と同様の罫があるのでしょうか。本人は分析家や医者の説明や態度には腑に落ちないところがある。自分のことは自分が一番知っているというのは嘘ですが、精神分析や脳科学が人間についてよりよい説明を与えるものかといえればそれも一つの嘘で実生活に耐え忍びやすくするための慰みを与えるのに有用なツールの一つでしかないとも言えるかもしれませんし、少なくとも真実、真理により近づいたということは全然なさそうですね。

ことができるのだとしたら、もし思考の歴史が、いかなる分析によっても抽象化なしに
 は解体されえない諸々の連鎖を絶えず結び合わせるのだとしたら、もし思考の歴史が、
 人間たちが語ることや行うことのすぐそばで、それを先取りし、それを準備し、それを
 その未来へと際限なく導くような、漠とした総合を織り成すのだとしたら、もしそうだ
 としたら、思考の歴史は、意識の至上権にとって、一つの特権的な避難所であることにな
 ろう。連続的な歴史、それは、主体の創設的機能にとって欠くことのできぬ相関物で
 ある。すなわち、連続的な歴史とは、主体から逃れたすべてのものが主体に返還されうる
 であろうと保証してくれるものであり、時間が何を分散させようとも、主体は、組み立
 て直された一つの統一性のうちに還元されるであろうという確信を与えてくれるもので
 あり、差異によって遠方に置かれている事物のすべてを、主体がいつの日にか——歴史
 的意識のかたちで——再び我が物とし、自らの統御を立て直して、自らの住処と呼びう
 るようなものをそこに見いださうと約束してくれるものであるということだ。
 歴史的な分析を連続的なものに関する言説に仕立てることと、人間の意識をあらゆる生成
 およびあらゆる実践の根源的主体に仕立てること、これは、同じ一つの思考システムの
 両面である。時間はそこで全体化という観点から考えられ、そして革命は、そこでは意
 識化以外の何ものでもないのである。

11:09 みと: 中井久夫は29歳頃、1963年頃でしょうか、榆林達夫の筆名で『抵抗的医師と
 は何か』というテキストの中で、革命家は別の入り口へどうぞ、と書いています。家族や患

者など身の回りの人達を犠牲にして革命の旗を掲げる者が多かったのでしょうか。ある目標のために現在の生活を犠牲にするという態度自体が資本主義的なのでそういう革命は始まる前にすでに挫折していると感じます。下線部に打たれ学生の頃より心に刻んでおります。

11:09 みと:



11:38 み、と 私は詳しくないのでwikipediaから引っ張ってきたのですが、聖書に善きサマリア人の話がありますね。私は詰所で助けを求めている高齢者の姿を思い出します。分業分業で、彼女や彼の訴えに耳を傾けて手を差し伸べることは仕事の効率を落とし職場では全く歓迎されない行為となっていますね。それより業務は終えたのかと先輩看護師や医師は言うかもしれません。詰所で車椅子に括られている彼や彼女の側につくこと、つけるような体制にすることは小さなことに見えて大きな一歩になると感じています。

11:38 ひと:



<10:25>するとそこへ、ある律法学者が現れ、イエスを試みようとして言った、「先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」。

<10:26>彼に言われた、「律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか」。

<10:27>彼は答えて言った、「『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』とあります」。

<10:28>彼に言われた、「あなたの答は正しい。そのとおり行いなさい。そうすれば、いのちが得られる」。

<10:29>すると彼は自分の立場を弁護しようと思って、イエスに言った、「では、わたしの隣り人とはだれのことですか」。

<10:30>イエスが答えて言われた、「ある人がエルサレムからエリコに下って行く途中、強盗どもが彼を襲い、その着物をはぎ取り、傷を負わせ、半殺しにしたまま、逃げ去った。

<10:31>するとたまたま、ひとりの祭司がその道を下ってきたが、この人を見ると、向こう側を通って行った。

<10:32>同様に、レビ人もこの場所にさしかかってきたが、彼を見ると向こう側を通って行った。

<10:33>ところが、あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、

<10:34>近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。

<10:35>翌日、デナリ二つ^[注釈 1]を取り出して宿屋の主人に手渡し、『この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います』と言った。

<10:36>この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか」。

<10:37>彼が言った、「その人に慈悲深い行いをした人です」。そこでイエスは言われた、「あなたも行つて同じようにしなさい」。

(<https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E5%96%84%E3%81%8D%E3%82%B5%E3%83%9E%E3%83%AA%E3%82%A2%E4%BA%BA%E3%81%AE%E3%81%9F%E3%81%A8%E3%81%88>)

14:58 素寒: 出来事に一つの統一的な説明を与えようとすることはある種の罣、というのは相似的に個人の歴史にも当てはまると思います。従って、診断を留保した方がよい場面があるのはそういうことでしょう。フーコーが『臨床医学の誕生』で、ピネルは精神病棟を解放したが、解放された患者は嬉々としてピネルのまなざしに貫かれるようになった、といったことを書いていたと思いますが、それもある種の罣だと思います。語りは騙りですね。こういった抱え込みを僕は嫌います。というか他者の主体性に対して申し訳なくてできません。

中井久夫の指摘は時代背景も含め面白いですね。具体的な小さいことを着実にというのは現代にも有効なことです。というより、医者ないし革命家となると現代であればむしろみとさんにむけたメッセージみたいですね(笑)

分をわきまえるというのは2000年前の時点で、道徳としてあったようです(プラトンがどこかの対話篇でソクラテスに言わせていたと思います)。我々は言葉を持っていますが、結局のところ鳥さんではないので、大地から離れて飛ぶことはできません。ある目標のために現在の生活を犠牲にするという態度自体が資本主義的、というのはさすがのご慧眼と思いますが、臨床家ですから言葉遊びに耽らずに分相応のことを具体的にすることと思います。

19:10 みと: COST 共同所有自己申告税という制度が提唱されています。不当な私的所有を廃止して、使用权を有するものに価格を設定する、使用者はその価格設定に応じた税を支払わなければならないというもので、その価格で購入されれば使用者はその物を手放さなければならない。価格を高く設定し過ぎると高い税金を納めなければならない低過ぎると誰かに使用权をとられてしまうかもしれない。税率はベーシックインカムのように全員に同額たとえば月15万など再分配できるように設定する。税も私的に所有できないので全員に平等に分配されるというわけです。

こうした制度自体はすぐには実現されないでしょうが、不当な私的所有の範囲を緩めるということはいつでもできることだと思います。衣類、食料、住居についてはある程度の民間の

協力があれば、最低限の保障ができるのではないかと。たとえば飲食店の残飯や店でも扱われなくなったような古着、公民館を公共のものとして利用できるようにする。公民館は寝泊まりできる場として、ということですが、住むところを確保するのが一番難しいですが、最低限食べるもの、着る物があればなんとか生きていけるでしょうしそのくらいは実現しやすいところかなと。公共のもの、宇沢弘文はこれを社会的共通資本と言ったそうです。コモンズとも言われるようです。地球も教育も医療もコモンズとするのが本来望ましいとは思いますが、身の回りの規模ですぐできることは色々あると思ってます。

さて言葉遊びに耽らないようにこの座談会も8月いっぱい締めましょうか。皆さま夢うつつの座談会にお付き合いいただきありがとうございました。

<https://toyokeizai.net/articles/-/319184>

22:44 素寒:笑いが話題にのびりましたが、
閉会前に笑いについて少ししゃべらせてください。
笑いは非常に臨床的なことだと思います。

ハンナ・アーレントは人間の活動を、labor、work、actionに分けてます。actionは芸術など自己表現そのもので、laborは交換可能だから自己表現がない。マニュアルは誰がやっても一定の結果が得られるようつくられますが、逆に個別なあなたである必要がなくなるので、マニュアルのもとでなされるactivityはlaborとなる。laborはしんどいですね。

しかし、口が悪くて申し訳ないのですが、
笑えない仕事を続けている自分がいるというのはなかなか笑えます。
お子さんになぜ笑わないかと指摘されるというのもなかなか笑えます。
患者さんになぜずっと笑っているのかと言われるのも結構笑えます。
皆さんのあれこれに的確にツッコミを入れる存在がちゃんとあったわけで、あとは笑うオーディエンスである僕がいれば笑いになるわけですね。

以前お話ししたかもしれませんが、予備校講師の時に、一切話さない子の面接が面接を受けるという矛盾を絵に描いたような難問が発生しまして、僕に白羽の矢が立ったわけです。偏差値はそれなりに高いから面接さえしくじらなければ合格を目指せました。その時に僕は、自分でボケて、自分でツッコミを入れて、そして自分で笑うということを繰り返しました。

これを無言で笑わない彼を前にして続けるわけです。これらは全て精神の運動でして、繰り返しているうちに、僕のツッコミと笑うタイミングが分かって、彼のなかで恐らくツッコミと笑いの芽がタイミングよく生起します。かくして彼はわずかに笑うようになり、わずかに話すようになり、面接を突破するに至ったわけです(しかし、この結果になんの価値があるのか)

ツッコミというのは、現象に対するある恣意的な切断です。自然発生する場面もありますが、切断を増やせば笑うという切断の後にくるものは自ずと増えます。

従って、切断の意思があるかが問題となります。

笑いたければ意思をもって切断せよ、ということになります。

生きていくことは死に向かうことという、これまた非常に笑える話ですので、人間に生じるだいたいことは笑えるんじゃないでしょうか。

もろもろの選べなかった条件のもと投げ入れられて、皆平等です、自由意志でどうぞなんて言われるのも、もはや笑う以外ありませんよ。

皆さんよく笑わずに正気を保ってますね。

世に金があってもなくても、世の法が善くても悪くても、人間のすることですもの、笑えますよ。

僕も好きです、高杉晋作の辞世。口惜しかったろうな、結核であんなに若くに死んでしまつて。古事記演説なんて、たまりません。

笑うということについては、枝雀の言う緊張の緩和ということは参考になります。

緊張の緩和が笑いだが、緊張が勝ちすぎると笑い事ではない、ということを言ってますけど、畑は違いますけど(あるいは同じ)、非常に納得します。

症状があっても笑えればOKでして、クレーマーとも最終的に笑いにもってければOKです。もちろん笑えない症状も病態もあるのですが。

僕はボクサーがジャブを打って相手の反応を確かめるように、漁船が超音波を出してその反響で魚群の位置を把握するように、言葉でもって、緊張の強度を探ります。

症状・病状に対する患者の緊張の強度、距離。

患者と僕が笑えるか笑えないか、というのは僕の臨床にとっては切実なことで、問診を含めた身体診察の一つといって差し支えない。

緊張の強度、笑いの濃度、主体性の濃度。

これら指標は全て密接に関係していますが、これら指標を把握するために沈黙と切斷を含めた言葉を使います。

看護師さんが僕の外来をみてひまわりの様な外来というのは、必ず笑いが生じるからのようです。称賛か揶揄か知りませんがね。僕としては陰陽の極まる彼岸花のような、あるいは、台風でしなるけれど折れずに可憐な赤い花を咲かせるモミジアオイのような外来と言って頂きたい。

そんな僕に臨床推論の力がなければただのおしゃべりヤブ医者となるのは当然のことです、日々の研鑽を怠ってはなりません。

人称の死で有名なジャンケレビッチもイロニーを緊張の緩和で説明していますね。曰く、ユーモアは終わるに先立って、心配事を予め告げ知らせる。何言うてんの、あんた言うてるまに死にますやんか。

みとさんの言うように、別の可能性を提示するものとしてのユーモアは美しいですね。死ぬんわかりましたけど、ほんでどうしますの。

PTSDの子供がマインドリーディングがうまいというのも緊張と関係があるでしょう。

PTSDでは強い緊張を強いられますから。

どのような程度の心的外傷がPTSDをもたらすかというのは難しいところですが、主体性の損傷とのスペクトラムで考えればよいことです。程度の差こそあれ、誰もが傷つき喪失を経験しています。心的外傷と緊張もまたスペクトラムのなかにあります。

LINEの座談会というのはメンバーの微細な緊張が見えづらいですから、僕のような場の緊張でもってツッコミを操作していく者にはやや不利ですね。

しかし僕は無知で学問が足りません。謙遜でも、ソクラテスの無知ではもちろんなく、単なるシニカルなおばかです。個別性にはこだわりますが、システムや大文字の歴史といったものに寄与したい、別の可能性を提示したいという思いもあります。今後もみとさんの学問で支えて頂ければとてもありがたいことです。

2021/08/26(木)

07:06 みと:昔ピューと吹く!ジャガーという漫画がありましたが、突吉こむ平というツッコミキャラが凍狂(とうきょう)という突っ込みなき世界で戦慄する姿を思い出しました。

私はどちらかと言えば、ぼけたおすほうで、認知症のおじいさんと話すとお互いにぼけ合い続ける感じになりはたからみたら奇妙に思えるかもしれません。

精神科医中井久夫は座談会の中でラカンがフランスの片田舎のおじいさんの言葉と思えば読めるというようなことを述べていたことがあったと思います。難解な書を書こうと思えば、一番手っ取り早いのは認知症のおじいさんやおばあさんの言葉を書き留めて、書かれたもの(エクリ)と題しジャック・ラカンとでも署名を入れることでしょうか。

Zoomなど電磁的なテレビ電話式の通信手段の特徴は間が抜ける、Lineなどのテキストでのコミュニケーションの特徴は真に受けるということでしょうか。Zoomなどは如何に技術が向上してきているとはいえ通信が途切れることがあり、間で語ることができずもどかしい思いがありますが、Lineでは書かれたことがすべて真に受けられやすいというところがありそうです。書くという行為は何者かとしてという演技がないとできないですがその演技性が伝わりづらいことがあるかもしれません。カフカが友人の前での読み上げのときと異なり小説ではなかなか笑って読んでもらえないことと同様に。

間が抜けたり真に受けられたりとなかなかままならないものです。

wired brainとかシンギュラリティがコロナ後どうしても話題になるのはこうした事情もあるでしょう。お互いの心が直接つながり合うことができればと。エヴァンゲリオン、最近の一連のものはまだ観ていないのですが、碇シンジがそれでもアスカから気持ち悪いと言われる世界を選んだ以前の映画とどう変化しているか少し気になっています。

ラカンによると人は不安が極まると、舞台から降りるか逆に他者へと向かうことがあります。舞台から降りるのは他者なき世界でwired brainのイメージに近いでしょうか。あるいは、自殺です。他者へと向かう場合はアクティングアウトや喪mourningという形で現れる。キューブラー＝ロスの五段階で言えばアクティングアウトが取引、喪(他者の喪失、欠如の欠如をなかったことにするために自身が他者に成り代わろうとする行為、オフィーリア)は抑うつ段階に近いでしょうか。いずれも欠如が欠如してしまうことを乗り越えようとした努力の跡ですね。ほんとうの受容は欠如を別の形で思い描けるようになったときに訪れるのでしょうか。

07:06 みた:



([https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%A2_\(%E7%B5%B5%E7%94%BB\)](https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%A2_(%E7%B5%B5%E7%94%BB)))

07:07 みた: ジョン・エヴァレット・ミレー『オフィーリア』

07:11 みた: だから私たちは五段階の最終段階として受容の代わりに笑いを置いてもいいのかもしれないね。

07:21 みた: 一つの区切りとして8月31日でこの座談会を閉じることにしましょう。

それまでに何かコメントいただける方がおられましたらよろしくお願いいたします。

07:22 みた: ちなみにラカンの不安の表はこちらですね。

不安の表

困難さ difficulté

運動
mouvement

制止 Inhibition 欲望(防衛、貯蔵の欲望) 行為 desire to not see	妨げ Empêchement 無能 Impotence、見ない欲望を完全には実行できない、衝動強迫 compulsion 主体	塞がり Embarras 過剰なもの キルケゴール 不安の傾向 斜線を引かれたS 妊娠した女性 不安の軽い形態
感動 Emotion desire to not know	症状 Symptôme 転移あり 全能 omnipotence まなざし 幻想の中で他者の全能を満たす欲望からくる試み	行為への移行 Passage à l'acte 捨てる フロイトのもの 遁走 舞台(<他者>)から世界(現実的なもの)への移行 自殺 メランコリー
動揺 Emoi Et moi 過少なものの 力の原則の外 aそのもの 糞便 肛門的「emoi」 権力や力を失わせる I(A) 自我理想、取り込み	「Acting out」 転移なし 野生wildcatの転移 顕示 <他者>へと向かう 喪 mourning 想像的なもの、愛、i(a) 強迫神経症の抑うつ状態	不安

22:20 空谷子: コロナの話も哲学の話も難しく、知識の乏しさゆえ言葉を差し挟むことできませんでしたが、興味深く拝見しておりました。

私は西洋哲学も共産主義も難解にしていまだわかりませぬ。

しかし善きサマリア人ということには賛成します。

そうしていまだに神は死んだと思わぬ人間であります。

善きサマリア人に必要なことであります。

物質的な、科学的な思考のみしか持たない善きサマリア人は存在するのでしょうか？

無力で知恵もまわらぬ人間にできることは祈ることしかないのであります。私は祈ることをします。そうしてできることをやるだけです。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます🙏

2021/08/27(金)

05:40 みと: 空谷子さんありがとうございます。

私は夢から覚めているという夢や私だけは幻想から逃れているという幻想が最もタチの悪い夢であり幻想なのだろうと思います。

私が観ていないマトリックスの主人公のように幻想から覚めた先に真の現実があり私はそちら側、覚めた側にいるのだという夢ほど醒めにくい夢はないですね。

ラカンのカマキリの喩えではないですが、目の前に雌のカマキリがおり、私は雌か雄かどちらかわからないが何れかのお面をかぶっている、そのときに自分は雄に違いないと確信する、そういう態度と同じように思います。雌カマキリは雄と交尾したあとにその雄を食べてしまうと言われているので、自分が食べられるかどうか宙ぶらりんの状態よりはより悪い現実であれ白黒はっきりしているほうが安心するのですね。宙ぶらりんの不安が募ると、妄想や悟りの感覚が訪れる。だから統合失調症では妄想はないよりは保護的なんですね。

神は死んだというのは夢から醒めた夢でだから科学主義は醒めにくいのかと。

信仰なき信仰からほんとうの信仰を、と思います。

今人知れず日記を書ける人はどのくらいいるでしょうか。

人知れず祈り続けることや日記を書き続けること、これができる方は強いですね。尊敬します。私がしたいことでもあります。

05:57 みと:仏教の中にも悟りはないという教えがありますね。

07:17 みと:祈り。畏敬の念という言葉も想起されました。

23:08 H:オフィーリアの絵, 前に見たときはなんともおもいませんでしたが, 僕の好きなマトリックスや胡蝶の夢の話がでたのでそういえば攻殻機動隊の名シーンに似たような水中(草薙素子がダイビングをする内省的なシーン)のカットがあったなと思って検索したのですが似ても似つかなかったです. 笑

23:08 H:[草薙素子がダイビングをする内省的なシーンの貼付]

2021/08/29(日)

14:31 素寒:すごいよマサルさんの作者ですね。ほとんど覚えていません。

しかし、凍狂でツッコミがないことに戦慄するだなんて、まるで僕じゃありませんか。

確かにそこではツッコミはありませんでした。ツッコミを受けて喜ぶ快楽はあるようでしたが、ツッコミをする側となるとそのタイミングも仕方もわからないという戦慄の回答がありました。

まあしかし、所詮は精神の運動です。自転車の習得みたいなもので、最初はぎこちなくともそのうちスムーズになるというものです。

ボケもツッコミも情緒を含んだ生ものですから媒体を利用すれば当然旨味が減りますし、情報も減ります。間も抜けるでしょうし、諧謔が諧謔と伝わらず真に受けられて困るということもあるでしょうね。オンラインのやりとりが増えると、どうしても生ものの取り扱いが不得手になりそうです。僕も魚を食うのは好きですが、魚の釣り方も知りませんし、釣って飛び跳ねる魚をうまく針からとってやることもできません。座して静なる魚を食うのみです。老子が、飢えた子にはサカナを与えずにウオの釣り方を教えよと言ってましたっけ。

吉本の芸人を指導する本多正識という漫才作家がいて、彼は一切笑わない笑いの鬼教官のようです。

彼は笑いについてさんざん分析するものの、笑いのプレーヤーではなく、監督です。笑いに参加せずに笑いを分析し、笑いを指導するだなんて、笑えます。

彼は終始ネタを考えているようです。電車の中では目の前の人が弁当をこぼしたらどうしようか、だとかいつも考えているようです。終始何かにツッコミを入れようとする僕も似たようなものです。

『昭和元禄落語心中』というアニメに、笑いを冷徹に分析する鬼と、天衣無縫な天才が描かれていますね。アポロン神とデュオニソス神。”A River Runs Through It”のブラピもデュオニソス的で美しかったな。

みとさんは確かにぼけ担当ですね。

ぼけているのか、とぼけているのかよく分かりませんが。いずれにせよ、僕がこれからもツッコミを入れて差し上げます。

五段階の最終段階として受容の代わりに笑いを置くというのは、これまた枝雀的でして、彼は細かい笑いを蓄積させて、やがて緊張の大緩和を目指すといったことを言ってます。大緩和の笑いは、弛緩しきっており緊張の生じない悟りの笑いです。手前四段階は緊張の変形、進化なわけですが、5段階目に至って受容＝悟りの笑いとなりましょうか。

14:50 素寒:空谷子さん、素敵な声をありがとうございます。

空谷さんは祈りの人ですね。

僕も祈りの人です。

しかし、空谷子さんのように具体的な祈り方を知っている人間ではありません。

抽象的な、形のない祈りです。

従って、祈りと言えるか自信がありません。

僕は形ある祈りを受けて育ちました。何かにつけて、僕の親しい人々が「いつもあなたのことをお祈りしていますよ」と言ったり書き送ったりしてくれました。

なかでもある高齢のアメリカ人女性のふるまいは僕の心身に深く刻まれています。僕のホスピタリティは彼女のそれです。彼女は祈りの人であり思いやりの人です。その心でもって、祈りと思いやりの場をつくってしまう、そんな人です。

祈ることである種の場がつくられるようです。

祈られると感ずることでもある種の場ができます。

僕はそのような場で育ちました。

祈るしかできないと謙虚におっしゃいますが、そのような場を日々つくっておられることは、とても偉大なことと存じます。

14:54 素寒: 言い忘れましたが、

空谷子さん、僕のこと、ちゃんと毎日お祈りしてくださってますよね。

頼みますよ、困りますから。

ちゃんとみてますからね。

15:12 素寒: Hくん、

攻殻機動隊、僕も好きです。

最強のアニメです。

僕も公安9課で働きたい。

雑魚キャラとして瞬殺されるでしょうけど。

15:42 空谷子: 素寒先生、素寒先生のために祈っていますよ！

どうか素寒先生も私のために祈ってください🙏

17:24 素寒: ほな、よろしいわ！

もちろん、お祈りしておりますよ。

19:39 空谷子: [圧倒的感謝っ…！と言い如何にも辛そうに歯を食いしばり泣いている男のLineスタンプ]

20:03 素寒: 泣かんでもよろしい。

わろときなさい。

20:03 空谷子:[クウクウと涎を垂らしながら笑う黒い男のLineスタンプ]

20:05 素寒:きもちわる！

21:17 H:僕だったらタチコマとして勤務して少佐に乗って貰いたいですね...

21:18 素寒:それもきもちわる！

21:18 H:笑

2021/08/30(月)

08:32 みと:ジジエクの本の中に泣き女(葬儀で泣くために雇われる人た)やバラエティー番組での録音された笑い声の話があります。これはギリシア悲劇のコロス(今で言えばコーラスでしょうか)と同様の機能を果たしていると。

映画やテレビ番組で如何にも感傷的な場面で如何にも感傷的な音楽を流したり、如何にも愉快な場面で愉快的な音楽を流したりするのも同様の機能を果たしているでしょう。笑記号や絵文字も同様でしょうか。その文化に追従するための心の杖の機能ですね。

笑いの先生は現在の文化の心の杖に精通しているかもしれませんが新しい心の杖を作ることにはできないでしょう。藝術家、藝人は新しい文化の杖を創り出す人たちですね。というより杖のない中をよたよた彷徨する人たちでしょうか。周りが不安になるので新しい杖をつくってあげようとするのですね。

本来、笑いや涙に承認はいらないですからね。

デュオニソスやディオゲネスのようにはなかなか生きられないですね。おはようございます。

08:37 H:朝の挨拶に長すぎませんか？！”笑“

11:20 みと:すみません、まだ寝ぼけてまして。

11:22 みと:そろそろお開きですね。Hさんエンドロールに流す楽曲は選定されましたか？
よろしくお願いします。

11:29 みと:私のリクエストはこれですかね。ホームワークが終わらない

<https://www.youtube.com/watch?v=OpgclKIARGI>

11:34 素寒:僕はKeith Jarrett ""prayer""をリクエストします from 内科外来

<https://www.youtube.com/watch?v=w8VIipPNmUo>

16:14 H:こうなると間(あいだ)を取りたくなります。こちらで。キースも知らない内に亡くなってしまいましたね…。チャーリーヘイデンのベースが切ない。あと幽白のエンディング、かっこよすぎでした。小学生の私には分からなかった…。

<https://www.youtube.com/watch?v=M4ihKCJMd3w>

18:18 みた:邪道かもしれませんが、中学の時エヴァを通じてfly me to the moonの歌詞を覚えました。ありがとうございます。

18:20 H:多くの人がそうであったかもしれませんね。ありがとうございました。

19:02 H:キースジャレットですが、脳梗塞になってピアノが弾けなくなっただけで、亡くなっていませんでした。ごめんなさいキース。

2021/08/31(火)

21:46 みた:そういえば、ご存知の通り今回の座談会のBGMはこちら(渚にまつわるエトセトラ)でした。

現場のリアルタイムの声と空気とゆるんだエトセトラが少しでもドキュメントできればという思いもありました。

皆さまご参加いただきありがとうございました。

<https://www.youtube.com/watch?v=oVVrICEKdsQ>